

神奈川私学保連

NEWS



神奈川県私学保護者会連合会 会長 市川 昌 廣

(横浜学園中学高等学校 後援会会長)

過半の人たち

人生80年をフルマラソンで例えると、中高生の世代はスタート地点からせいぜい10km程度のところだろうか。

一流のマラソンランナーは10km地点でも自分のゴールをイメージしながら走ると言われるが、ゴールテープを切る自分の順位まで当てることは難しい。

人生だつてそうだと思う。

中高生で自分の将来を決められる人は多くはないだろう。家業の後継ぎをするとか、科学者やアスリートになるとか、あるいは尊大な事業を成し遂げた著名人のようになりたいと心に秘めている人はいるだろうが、過半の人たちは未来をただ漠然と思い描いているに違いない。

ところが世の中はその過半の人たちが欠かせない役割を担う。人は能力ばかりでなく目に見えない運命によりさまざまな生き方をする。過半の人たちとはどんな人だろう。私の人生で偶然すれ違った人たちの半生をいくつか紹介してみる。

A君―。

彼は小学生時代から物作りが得意で、自分で考案した住宅模型のような積木を学校にもって行き、友達と組み立てた。友達は彼の作った積木の絶大なファンとなり、次々と新しい積木をねだった。工作好きだった彼は苦にならない。

中学生になると、愛犬の犬小屋がボロボロになるのを見かね、廃材で犬小屋を作った。それも単純な犬小屋ではなく、小屋の中には住まいのように間仕切壁や自在ドアがある楽しいものだ。そんな彼でも高校には行けなかった。彼のせいではなく、家庭の事情だった。

彼は中学を卒業するとさつさと工務店の見習い大工になる。工作好きが高じてどんどん腕を磨き、中学の同級生たちが大学を卒業する頃には、住宅1棟を任せられる一人前の大工になっていた。30歳で大工の棟梁をつとめ、いまは大学卒の社員を何人も抱える建設会社の社長だ。

B君―。

彼は秀才。中高ともトップで大学は東大。新聞記者になりニューヨークやロンドンの特派員として活躍し、40歳でヘッドハンターに引き抜かれ出版社に転職。その後スクープ記事で幾度となく表彰され、報道部門のトップを経て退職し、趣味の水彩画を描き楽しんでいくという。

C君―。

彼の中高生時代は暴れん坊だった。授業中でも無断で抜け出し欠席もしばしばで勉強もほとんどしなかった。案の定、高校を2年で退学になった。ところが数年後、その彼が突然改変し定時制高校に進学。

そして食品メーカーでアルバイトをしながら、大学の食品系の学部に入學した。そこで女子学生と運命的な出会いをする。女子学生は東北地方で老舗の味噌醸造会社の一人娘だ。彼は大学を卒業すると、請われて味噌醸造会社の婿養子になった。いまは謙虚な五代目である。

D君―。

もう1人秀才がいた。彼は東大に入り司法試験をめざすが叶わず、鉄鋼メーカーに就職し係長までいったが、どうしても職場となじめずモヤモヤしているうちリストラに遭い、子会社へ転属させられた。そこで閃いたのか、50歳そこで退職し、故郷の四国に帰り古民家を買って農業を営んでいる。

E君―。

彼は中堅クラスの大学から保険会社に就職した。堅実で律儀だった彼は不満も言わず日本中の支店を転々とし、定年間際でやっと東京の支店に戻された。

後日、保険代理店を開いた彼にお会いした時、「人生って、こんなものかなあ……」とつぶやかれたことを思い出す。

今年1月、理化学研究所の若干30歳の女性が、万能細胞「STAP細胞」の作製に成功したというビッグニュースがあった。ところが3月に論文のミスを指摘され、共著者が一度撤回し白紙にするという。しかし若い彼女の才能は信じた。彼女は早稲田大学先進理工学部の第1期AO入試で自分の将来の研究課題を的確に示し合格した。さて中高生の皆さんは、どんな人になるのだろうか。

神奈川県私立中学校・高等学校 振興大会

平成25年11月25日 午後2時～3時30分 横浜市関内ホール

10年ぶりとなる「神奈川県私立学振興大会」を開催しました。当日は、県知事の黒岩祐治様をはじめ、多くのご来賓の皆様をお迎えし、国会議員23名、県議員22名に出席していただきました。また、82校の全加盟校から理事長・校長・教職員及び保護者等998名が出席し、出席者の合計は1095名になりました。

主催者代表あいさつ

一般財団法人 神奈川県私立中学校高等学校協会

理事長 工 藤 誠 一

(聖光学院中学高等学校理事長・校長)



本日は黒岩県知事をはじめ、多数の県会議員の皆様、神奈川県選出の国会議員の皆様、そして松森県民局長をはじめとする県当局の皆様にご出席を賜り、十年ぶりに神奈川県私立中学校高等学校

振興大会を開催することになりました。

神奈川県は近代私学発祥の地という輝かしい伝統を持っています。かつて「立国は私なり公にあらざるなり」と福沢諭吉が申しましたように、私学あつて新たな国づくりが行われるという確信のもと、私学の創始者は教育の充実発展に貢献してまいりました。

私学においては平成十二年四月に標準的運営方式という経常費補助金の算出方式が導入されました。しかし、ここ数年生徒一人当たりの単価については国の財政措置額を下回っている現状にあります。

また、平成二十二年度から就学金、就学支援金制



度が導入されましたが、私立学校に通う生徒の保護者にかかる学費負担は、無償の公立高校に比べると厳然たる差が存在しています。

本日の大会を機に、私学のおかれしました厳しい実情に鑑み、ご理解いただくことで、改正教育基本法及び私学振興助成法の精神を十分に反映した私学振興策の着実なる実施と、より一層の公私間の学費格差の是正や公立学校の協調が図られますよう要望いたします。

また、将来性豊かな子どもたちの夢を実現するための神奈川県私立学校の責務と、そのための努力を県民の皆様にお約束する

とともに、暖かい春の芽吹きが神奈川県私立中学校高等学校に訪れることを会場の皆様とともに祈念し、ここに振興大会を開催いたします。

本日は多くの皆様にご出席を賜りましたことを、主催者として厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

来賓あいさつ

神奈川県知事 黒 岩 祐 治

このたび、神奈川県私立中学校高等学校振興大会がこのように盛大に開催されますこと、誠におめでとうでございます。

私自身も中学・高校を私学で育ち、二人の息子とも私学に進みましたので、私立学校の教育のすばらしさを体を通じて知っております。そして、私学の皆様それぞれの学校の建学の精神に基づいて独自の教育を展開され、それが全体の底力を上げていくことにつながると強く信じております。

一週間前に私はアジアを歴訪してまいりました。特にシンガポールのバイオポリスに感動し、シンガポールと神奈川県が覚書を結んで連携協定を取り付けてまいりました。国際的な大きなうねりの中に神奈川県もしっかり身を置いて、これからの私学の果たすべき役割、独自の形を展開していきたい。それこそがこの神奈川県、この国を救う大きな力になると信じております。

神奈川県は大変厳しい財政状況の中で教育をすばらしくしなければなりません。この重大な課題について「神奈川の教育を考える調査会」を設置いたしました。一年かけて検討していただきました。その中で私学のあり方として公立私立高校の定員決定の仕組みづくりと、私学の学費補助への重点化も報告されております。

この報告を受けて、私立の教育の皆さんとともにしっかりと議論を積み重ね、お互いの合意のもとで日本一の私学教育を皆様とともに実現してまいりたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日は、おめでとうでございます。



国会議員・県会議員出席者(本人または代理)

(1) 国会議員(衆議院) 18名

氏名	会派	選挙区	備考
義家弘介	自由民主党	厚木市・愛甲郡愛川町・清川村	
青柳陽一郎	結いの党	比例区	
浅尾慶一郎	みんなの党	横浜市栄区・鎌倉市・逗子市	代理
甘利明	自由民主党	大和市・海老名市・座間市・綾瀬市	代理
上田勇	公明党	横浜市旭区・保土ヶ谷区	代理
小此木八郎	自由民主党	横浜市鶴見区・神奈川区	代理
坂井学	自由民主党	横浜市戸塚区・泉区・瀬谷区	代理
椎名毅	結いの党	比例区	代理
菅義偉	自由民主党	横浜市西区・港南区・南区	代理
鈴木馨祐	自由民主党	横浜市港北区・都筑区	代理
田中和徳	自由民主党	川崎市川崎区・幸区・中原区	代理
中山展宏	自由民主党	比例区	代理
古屋範子	公明党	比例区	代理
松田学	日本維新の会	比例区	代理
松本純	自由民主党	横浜市中区・磯子区・金沢区	代理
山際大志郎	自由民主党	川崎市高津区・宮前区	代理
山本朋弘	自由民主党	比例区	代理
笠浩史	民主党	川崎市多摩区・麻生区	代理

(2) 国会議員(参議院) 5名

氏名	会派	選挙区	備考
金子洋一	民主党	選挙区制	
牧山ひろえ	民主党	選挙区制	
松沢成文	みんなの党	選挙区制	
佐々木さやか	公明党	選挙区制	代理
島村大	自由民主党	選挙区制	代理

(3) 県議会議員 22名

氏名	会派	選挙区
合原康行	民主党・かながわクラブ	横浜市旭区
新井綱世	自由民主党	横浜市磯子区
石井源真	自由民主党	横浜市泉区
小川久仁子	自由民主党	川崎市高津区
亀井貴嗣	公明党	横須賀市
久坂誠治	みんなの党	横浜市戸塚区

大会決議・保護者の願い

保護者代表 市川千恵

(武相中学高等学校 PTA後援会相談役)

本日は、黒岩神奈川県知事をはじめ、国会並びに神奈川県議会の議員の先生方には、お忙しい中をご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。日頃から、私どもの子どもたちが学ぶ私立学校教育の振興発展にお力添えをいただき、心から感謝申し上げます。

さて、現在、私立学校とそこに学ぶ子どもたちを取り巻く環境は、少子化や長引く経済不況による雇用環境の悪化等、ますます厳しさを増しております。そうした中

で子どもが私立学校の保護者として切に望みますことは、何よりも「子どもたちが安心して学ぶことのできる充実した教育環境の整備」でございます。

もとより、わが国の将来や

小林大介	みんなの党	相模原市南区
齋藤健夫	民主党・かながわクラブ	藤沢市
杉山信雄	自由民主党	川崎市川崎区
高橋稔	公明党	横浜市港南区
田中徳一郎	自由民主党	川崎市幸区
谷口和史	公明党	大和市
寺崎雄介	民主党・かながわクラブ	相模原市中央区
中村省司	自由民主党	鎌倉市
平本敏	民主党・かながわクラブ	横浜市瀬谷区
藤井深介	公明党	横浜市神奈川区
細谷政幸	自由民主党	相模原市南区
牧島功	自由民主党	横須賀市
松崎淳	民主党・かながわクラブ	横浜市金沢区
松田良昭	自由民主党	横浜市戸塚区
三橋政雄	自由民主党	横浜市南区
向笠茂幸	自由民主党	足柄下郡

※敬称略

神奈川県の郷土発展のために、子どもたち一人ひとりが立派に成長し、社会の役割を担えるよう育てることは、私も保護者の責任でございます。一方、私立学校の保護者として何よりも第一に望みますことは、「子どもたちのそれぞれが自分の能力や希望に応じて、自ら選択した学校で充実した教育」が受けられることでございます。

今、現在も一昨年の東日本大震災、そしてそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故の悲しく厳しい現実があります。この震災の教訓から「教育環境等の整備」では、子どもたちが安全で安心な学校生活が送れますよう、私立学校の耐震化、備蓄等防災対策につまきまして、全額税金で措置されている国公立学校と区別なく早急な対応をお願いしたく存じます。

また、私も保護者は、様々な学校の選択肢の中から、私学の独自の教育方針に賛同し、子どもに良かれと考え、私学に学ばせております。が、しかし経済的にゆとりのある家庭ばかりではございません。是非とも家庭の経済状況により自由な学校選択が妨げられることのないよう、私立学校保護者への更なる学費負担の軽減策をお願いしたく思います。

そして同時に、これまで以上により良い教育が受けられますよう、各学校に対する「私学助成」につきましても、従来通りの制度が維持されることを望みます。そして、予算額が確保されることが、私立学校に学ぶ子どもたちの教育環境を整備する上で必要不可欠なことと考えております。こちらの方もよろしくお願い致します。

本日、私立学校関係者並びに私も保護者は、その総意において、私立学校に学ぶ子どもたちの教育環境の一層の改善・充実と私立学校保護者の学費負担軽減のために、次の三点について決議し、ここにその速やかな実現を望みます。ご臨席の議員の先生方におかれましては、何とぞご指導とお力添えをよろしくお願い申し上げます。

一つ、私立中学校・高等学校の経常費補助に対する補助率2分の1の継続と補助単価の充実・強化

一つ、保護者負担教育費の公立と私立学校間の格差は正と負担の軽減

一つ、私立高等学校等の全施設の耐震化に向けた国公立学校と同等の財政支援の拡充と実施

以上でございます。

平成26年度

私学助成の概要

神奈川県次世代育成部私学振興課

私学助成につきましては、県教育における私立学校の果たしている役割や県内百九万人の児童・生徒の約二十五%に当たる二十七万人が在学していることを踏まえ、

- ①教育条件の維持向上
 - ②児童生徒の修学上の経済的負担の軽減
 - ③学校運営の健全性の向上
- の三つを柱に様々な助成を従来から行っています。平成二十六年度の概要は次のとおりです。

一 当初予算編成方針

「かながわ未来創造予算」と位置付け、緊急財政対策の成果を生かし、財政健全化に向けた取組みを加速させるとともに、いのちを守り、次世代を育む政策や経済エンジンを回す「成長戦略」を一気に加速させるべく、予算編成が行われました。こうしたことを踏まえ、保護者の学費負担の軽減を図るため、私立高等学校等生徒学費補助について、国の就学支援金の制度変更に合わせて、年収約二百五十万円以上三百五十万円未満の新生の世帯について、補助単価を増額し、支援の実を図ります。

二 一般会計

本県の平成二十六年度一般会計当初予算は、一兆八千六百五十億七百万円で、二十五年度当初予算に比べ、一千九百九十九億二千万円の増となっています。

三 私学振興費

私学振興費につきましては、六百二十億七千八百七十七万一千円で、前年度に比べ、一千九百八十五万六千円の増となっています。

(一) 経常費補助

私立学校の経常的な経費に対する助成は、標準的運営費方式と補助率を維持しておりますが、緊急財政対策に取り組んだ結果、四百五十四億七千二百六十四万五千円で、前年度に比べ、二億九千

八百七十三万二千円、〇・七%の減となっています。校種別では、**高等学校**は、百八十九億七千九百四十六万円で、前年度に比べ、〇・一%の増となっています。

中等教育学校は、六億三千四百二十二万二千円で、前年度に比べ、五・一%の減となっています。**中学校**は、五十二億五千六百一十一万円で、前年度に比べ、三・五%の減となっています。

小学校は、二十一億一千五百四十五万五千円で、前年度に比べ二・四%の減となっています。

(二) 私立高等学校等就学支援事業・生徒学費補助

家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込めるよう、高等学校等就学支援金及び学費補助により、家庭の教育費負担の軽減を図る事業で、予算額は、就学支援金と学費補助を合わせて、百二十二億四千四百二十万六千円で、前年度に比べ、三・一%の減となっています。

就学支援金においては制度変更が行われ、新生において年収約九百十万円以上の世帯に対して所得制限が適用される一方、年収約五百九十万円未満の世帯に対して五万九千四百円、加算額が増額することとなりました。

生徒学費補助においては、就学支援金の制度変更に合わせて、新生の世帯に対して補助単価を増額し、授業料が県内私学の平均である年間四十二万円の高校に進学した場合、年収約二百五十万円以上三百五十万円未満の世帯について、授業料の月あたり負担額が二千五百円で済むよう、支援の充実を図ることいたしました。

(三) 私立学校生徒学費緊急支援事業費

保護者の失業や倒産等により、家計が急変した児童・生徒の学費負担の影響を軽減するため、授業料を軽減した私立高等学校等に補助するもので、予算額は、二千五百八十二万三千円で前年度に比べ、二十九・三%の減となっています。

(四) 被災幼児児童生徒就学支援補助金

東日本大震災により被災した幼児児童生徒の授

業料等免除措置を行った私立学校の設置者に対して補助するもので、予算額は、三千三百五十一万八千円で前年度に比べ、八・九%の増となっています。

(五) 私立学校施設耐震診断調査費補助

児童生徒等の安全確保と災害時の近隣住民の避難施設としての公共性を考慮して、耐震診断調査の促進を図られるよう学校施設の耐震診断調査費の一部に対し補助するもので、予算額は、一千五百万円で、前年度に比べ、四十九・三%の減となっています。

(六) 私立学校教職員退職金制度補助金

私立学校教職員に対する退職手当金の給付財源の一部を補助し、教職員の福利厚生を支援するものです。予算額は、八億五千六百二十六万円で、前年度に比べ、〇・六%の増となっています。

(七) 日本私立学校振興・共済事業団補助金

私立学校教職員の福利厚生を支援するため、私学共済の長期給付事業の一部に対し補助するものです。予算額は、六億三百三十九万五千円で、前年度に比べ、〇・六%の増となっています。

(八) 私学団体助成費

私学保護者会連合会をはじめ私学団体が行っている「いじめ・暴力」関連研修並びに「薬物乱用防止研修」等に対し補助するものです。予算額は、総額で、六百二十万円で、前年度に比べ、三・三%の増となっています。

(九) 公立学校協調事業費

公立、私立の枠組みにとらわれず、公教育を担う公私の高等学校が協調を深め、特色を生かしながら、共に向上できる環境づくりを行うための協調事業として、神奈川の高校展開催事業及び公私教員研修事業等を実施するものです。予算額は、百三十万五千円となっています。

以上が平成二十六年度当初予算の主な内容です。今後とも、皆様の私学行政に対するご理解とご協力をよろしくお願い致します。

平成 26 年度当初予算私学振興費の概要

私学振興課

事 業 名 等	平成 26 年度	平成 25 年度	比較増減	前年度比	摘 要
	当初予算額	当初予算額			
[] は内数	千円	千円	千円	%	
1 経常費補助	45,472,645	45,771,377	△ 298,732	99.3	教育条件の維持向上、修学上の経済的負担の軽減及び学校経営の健全性の向上を図るため、私立学校の経常的な経費や特色ある教育への取組みに 対し助成する。
(1) 高等学校 [教育改革推進費]	[18,979,046 121,310]	[18,959,922 116,860]	[19,124 4,450]	100.1	
(2) 中等教育学校 [教育改革推進費]	[634,222 3,990]	[668,338 4,660]	[△ 34,116 △ 670]	94.9	
(3) 中学校 [教育改革推進費]	[5,256,010 47,540]	[5,445,280 51,360]	[△ 189,270 △ 3,820]	96.5	
(4) 小学校 [教育改革推進費]	[2,115,145 17,160]	[2,167,593 17,120]	[△ 52,448 40]	97.6	
(5) 特別支援学校	496,091	506,835	△ 10,744	97.9	
(6) 幼稚園 [預かり保育推進費] [地域開放推進費]	[16,718,471 716,210] [188,400]	[16,632,649 688,900] [175,800]	[85,822 27,310] [12,600]	100.5	
(7) 専修・各種学校	1,273,660	1,390,760	△ 117,100	91.6	
2 私立幼稚園特別 支援教育費補助	1,622,880	1,438,640	184,240	112.8	障害のある幼児と共に学び、共に育つ保育を推進するため、障害のある 幼児を受け入れる幼稚園に対し助成する。 ○補助対象園児数の 2,179 ← 1,974 人 (205 人増)
3 高等学校等就学 支援事業費	8,959,537	9,469,357	△ 509,820	94.6	家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち 込めるよう、高等学校等就学支援金及び生徒学費補助により、家庭の教 育費負担の軽減を図る。 (就学支援金主な制度変更) 新 1 年生適用 年収 910 万円以上世帯所得制限 年収 590 万円未満世帯加算支給、など (学費補助金の制度変更) (国の制度変更に合わせて新 1 年生に適用) ・授業料 (単位 : 円)
4 私立高等学校等 生徒学費補助	3,284,669	3,155,540	129,129	104.1	
(1) 高等学校等	3,101,864	3,000,026	101,838	103.4	
(2) 専修学校高等課程	182,805	155,514	27,291	117.5	
					生活保護世帯 420,000 297,000 123,000
					市町村民税所得割非課税世帯 (年収 250 万円未満世帯) 420,000 297,000 123,000
					年収約 250 万円以上 390,000 237,600 152,400
					年収 350 万円未満世帯 299,400 178,200 121,200
					年収約 350 万円以上 299,400 178,200 121,200
					年収 590 万円未満世帯 193,200 118,800 74,400
					年収約 590 万円以上 193,200 118,800 74,400
					年収 750 万円未満世帯 99,000 円 (対象は年収 750 万円未満世帯)
					○年収約 250 万円以上 350 万円未満世帯の単価増
5 私立学校生徒学費 緊急支援事業費	25,823	36,542	△ 10,719	70.7	保護者の失職や倒産により、家計が急変した生徒等への影響を軽減す るため、授業料を軽減した私立高等学校等に対し助成する。
					高等学校等 補助額 (円) 小中学校 補助額 (円)
					生活保護相当世帯または 118,800 生活保護 168,000
					年収 250 万円程度未満世帯 59,400 住民税所得 149,000
					年収 250 万円程度以上 一定所得 90,000
					年収 750 万円程度未満世帯 基準額以下
6 被災幼児児童生徒 就学支援補助金	33,518	30,778	2,740	108.9	東日本大震災により被災した幼児児童生徒の授業料等免除措置を行った私 立学校の設置者に対し、補助を行う。
7 外国人学校生徒 等支援事業費	172,662	0	172,662	皆増	外国人学校に通う子ども達が安心して学ぶことができるよう、所得に応 じて学費負担軽減の助成を行う。
8 私立学校施設耐震 利子補給費	4,757	4,967	△ 210	95.8	教育環境の充実、災害時の安全確保を図るため、施設整備に対しその資 金の融資あっせんを行うとともに利子の一部を補給する。 ・補助率 1.0% (償還期間10年以内) 1.2% (償還期間10年超) ・補給期間 10年間
9 私立学校施設耐震 診断調査費補助	15,000	29,605	△ 14,605	50.7	児童生徒等の安全確保及び災害時の避難施設としての公共性の観点か ら、耐震診断調査を実施する私立学校に対し助成する。 ・補助限度額 高3,400千円、小中特1,800千円、 幼1,000千円、専各1,400千円 ・補助率 2/3以内
10 私立学校教職員 退職金制度補助金	856,260	850,916	5,344	100.6	教職員の福利厚生を支援するため、退職手当金給付財源の一部を助成する。 ・補助率 県 18/1000 ・補助率 県 13/1000 ・補助率 県 17/1000
(1) 小・中・高等学校	494,045	494,484	△ 439	99.9	
(2) 幼稚園	302,135	296,334	5,801	102.0	
(3) 専修・各種学校	60,080	60,098	△ 18	100.0	教職員の福利厚生を支援するため、私学共済の長期給付財源の一部を助 成する。 ・補助率 県 8/1000
11 日本私立学校振興 共済事業団補助金	603,395	599,912	3,483	100.6	
12 私学団体助成費	6,200	6,200	0	100.0	中学高等学校協会他 4 私学団体の研修事業費等に助成する。 ・研修事業 (いじめ薬乱除く) 4,440 千円 ・いじめ暴力、薬物乱用防止研修 1,060 千円 ・教育連携事業への支援 600 千円 ・ブロック会議支援 100 千円
13 公私立学校 協調事業費	1,305	1,305	0	100.0	公私立高等学校による協調事業を実施する。 ・神奈川の高校展事業 1,080 千円 ・公教員研修事業 225 千円
14 その他	1,012,220	655,876	356,344	154.3	・私立学校審議会費ほか
合 計	62,070,871	62,051,015	19,856	100.0	

研修事業Ⅰ

東京宝塚劇場研修ツアーを終えて

平成25年10月18日(金)

私学保護者会交流会 代表

石田 隆

保護者会と交流会の会員が集まり、105名の参加者はバス2台を満席にして横浜駅前を出発しました。補助席利用となつてしまった役員の皆様には、申し訳ありませんでした。

まずは有楽町駅近くのイタリアンレストランでランチバイキングです。パスタやピザ、デザートをおいしくいただきました。他の学校から参加された人とも和気あいあいの楽しい昼食になりました。

次に宝塚劇場に歩いて移動。私も初めてなので「ここが宝塚か!」と興奮しました。1階のロビーで集合写真を撮

撮影してから劇場内に入りました。座席は見やすく傾斜しており、ステージは日常と違う色彩と空気に包まれていました。

第二幕は花組のトップスターである蘭寿トムさんが主役の「愛と革命の詩(うた)」が始まりました。才能豊かな美しい宝ジュンヌの演技に釘付けになり、目まぐるしく繰り広げられる場面展開で、すばらしいミュージカルを堪能することができました。

休憩後の第三幕は、華やかな歌とダンスのショーです。鍛え抜かれた歌声と踊り、鮮やかな衣装、そして生バン

ドの演奏。時間が過ぎるのも忘れてしまふほどでした。約1時間半のショーでしたが、大変心地よく鑑賞することができました。

今回の研修ツアーは宝塚学校の創立100周年という記念すべき年に企画することができました。この事業は私学保護者会連合会と交流会の共催で、毎年行われています。今年度も各学校から多数ご参加をいただき、ありがとうございました。次年度も有意義で魅力ある内容を企画しますので、皆様お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。さいますようお願いいたします。

夢の世界に浸ることができた宝塚

理事 前迫 由香

(横浜富士見丘学園中等教育学校 PTA副会長)

楽しみにしていた宝塚劇場の観劇を見ることができました。

第一幕はミュージカル「愛と革命の詩(うた)」です。物語の舞台は18世紀のパリ。貴族社会に不満をもった民衆によってフランス革命がおきました。混乱した社会の中で、詩人アンドレアは自分の心に正直に詩を書き続けます。

貴族令嬢のマッダレーナはアンドレアの詩に心をひかれていきます。そしてマッ

ダレーナに思いを寄せながらフランス革命を戦うジェラルド。3人のお互いを思う純粋な心と、崩壊する貴族社会と自由を求めて戦う人々の姿が、立体的で美しい舞台に表現されていました。

第二幕は「Mr. Swinging!」です。

ジャズの名曲「スウィングしなけりや意味がない」に乗って、スリッパの男役たちによる華麗な踊りが始まりました。きらびやかな衣装とエネルギッシュなダンスで最初から最後まで圧倒されてしまいました。

感動の余韻を残して、帰りのバスの中でも参加者は打ち解けた様子で会話が盛り上がりました。多くの方と一緒に夢の世界に浸ることができ、楽しい一日を過ごすことができました。ありがとうございました。

最後に、研修ツアーの無事終了にあたり、共催いただいた私学保護者会連合会・私立中高協会の事務局、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



東京宝塚劇場1階ロビーにて

研修事業Ⅱ

平成26年2月20日(木)

場所 崎陽軒本店

講演会

「魅力ある神奈川私学」

今年度の研修事業の2回目として講演会を開催しました。その内容は「魅力ある神奈川私学の特色」と「保護者が知りたい助成金の特徴」です。加盟校の20校から92名の保護者が出席し、会場である崎陽軒本店の大きな会議室が、ほぼ満席になりました。

講師は神奈川県私立中学高等学校事務長会の高橋己幸会長(三浦学苑)と、大沢和彦副会長(横浜英和女学院)にお願いしました。お二人は私立学校の事務長として長く携わり、また、事務長会のリーダーとしても活躍されています。

〔高橋会長のお話(概要)〕



最初に、本日出席された20校の特色について紹介します。私がお世話になり、関係している学校がたくさんあります。私学はそれぞれが「建

学の精神」をもち、特色のあるすばらしい学校づくりに努力しています。また、神奈川は日本の私学発祥の地であり、明治時代に18校、大正時代に11校、その後51校が設立しました。神奈川私学の約8割の学校が創立50年以上になります。

次に、私学への補助金と学費支援制度についてお話しします。国から県に、そして県の裁量でそれぞれの私学に経常費補助金を出しています。しかし、47都道府県の中で常にワースト1〜3位の金額になっていることが問題です。神奈川県の財政難はわかりますが、せめて国の補助額に近い経常費補助をしていただきたいと思っています。

学費支援制度については、国の「高等学校就学支援金」、県の「高等学校等生徒学費補助金」、「高等学校奨学金」があります。詳しい内容が本日の資料にありますので、参考にしてください。

〔大沢副会長のお話(概要)〕



の皆様が活用するために、積極的に高校へ申請してほしいと願っています。

政府は私学への補助を増やすよりも、個人に補助金を出すようにしています。それ自体は悪いことではないのですが、学校の事務負担は大変なものになります。東京都では、この事務をすべて行政がやっています。保護者の皆様には、そのことについてご理解いただければと思います。



二年ぶりの

「私学振興全国大会」に出席して

平成25年12月3日(火) 日比谷公会堂

監事 金子晃久

(高木学園女子高等学校 PTA顧問)

一昨年の平成二十四年は、直前に衆議院選挙の公示日と重なったことから全国大会が中止となったため、今回は二年ぶりの開催となりました。当日は全国から約二千人の保護者や私学関係者が出席しました。

一昨年の大会は曇り空とその冬の冷え込みで、日比谷公会堂の外で待ち合わせるのも大変でしたが、今回は好天になりました。明るい陽射しが、銀杏の葉を鮮やかに照らしていました。

大会が始まると、壇上には来賓として政権与党を代表する議員が並び、前回よりも明るく活発な印象を受けました。私学に対する支援にも、アベノミクス効果が波及することを予感しました。

私学への支援はまだまだ拡充する必要があります。そこで政府予算に関して、①経常費助成、②私学校

への耐震化支援、③就学支援金制度の見直し、④ICT環境の整備と充実、⑤教員資質能力向上の補助金拡充、⑥被災学校・生徒への支援の6点を要望しました。景気回復の兆しが見え始めたこともあり、一昨年の大会中止を埋め合わせるかのような明るい雰囲気で大会は終了しました。



第2回 いじめ・暴力行為を考える協議会

平成26年3月7日(金) 私学会館

会計理事 深 沼 昭 彦

(横浜清風高等学校 P.T.A常任顧問)

この協議会に参加して、5年目になります。今回は私学振興課及び私学関係団体が主催の「いじめ問題対策研修会」に参加して参りました。

冒頭に私学振興課より情報提供がおこなわれました。いじめの状況、いじめの解決率の状況、不登校の状況、暴力行為の状況などの説明がありました。特に気にかかった事は不登校の状況説明で、きっかけと考えられる状況でいじめと考えられる場合、重大事態になるという事です。重大事態とはいじめ防止対策推進法に定められている法で

一、児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

二、児童生徒等が相当期間学校を欠席すること余儀なくされている疑いがあると認められるとき。

法規ではありませんが国立教育研究所資料で児童生徒や保護者からいじめられていて重大事態に至ったという申し出があったときということ。いじめ・暴力行為は絶対にあつてはいけない事です。ただ、なくなっていない事も事実です。起こってからの対応も問題があつたこともまだ記憶に新しく感じます。今回、研修会での講演は起こった場合の適切な対応とは何かを事例に交えてのお話でした。われわれ保護者も学校がどのように対応していくのかよく理解して、いじめ・暴力行為等をなくす努力を続けなくてはと痛感しました。今後この研修会や協議会に参加させて頂きたいと思っています。



この一年を振り返って

会計理事 原 大 蔵

(聖光学院中学高等学校 聖光会理事)

来年度から公立高校の授業料の無償化が廃止されます。その分、私立高校に通う生徒は、家庭の所得に応じて学費補助額が増額されることになりました。公立高校の入学金や授業料等は、私立高校と比べるとかなり安いので、負担額はまだ公私でかけ離れているとはいえ、公私間の格差は少し縮まりました。

一方、中学についてはそのような動きが全くありません。「義務教育において、好きで私学に通わせているのだから自分で負担するのが当たり前」と私も以前はそう考えていました。しかし、本当にそうでしょうか。神奈川県内で私学に通う中学生は約2万7千人で、その財政支出減額は約2百億円になります。

義務教育の制度があるのは、子どもたちを教育することが将来の日本に役に立つからであり、税金を投じる価値があるからでしょう。

公立中学に通わせれば100万円分(公立中学生に一人に使われている税金)の行政サービスが受けられ、私学では30万円(の補助)しか受けられない。この大きな差額は理解に苦しむところです。このことが私学入学の大きなハードルになり、就学希望者が経済的理由で諦めなければならないことが問題だと思っています。

昨年の11月に、10年ぶりとなる「神奈川県私立中学校・高等学校振興大会」が千名を超える方々にご参加をいただき、盛大に開催されました。多くの議員の皆様や県の行政当局に強くアピールできたと思います。こういった活動が公私間格差を少しでも解消することにつながっていきます。

今後皆様方とともに、頑張って活動していきたいと思っています。

主な行事への出席

◆10月18日(金)

研修事業Ⅰ「東京宝塚研修」*東京宝塚劇場(参加者・保護者会65名 交流会28名)

◆11月5日(火)

「黒岩知事を励ます会」*横浜ロイヤルパークホテル(出席者・市川会長、佐藤・玉園副会長、他役員4名)

◆11月25日(月)

神奈川県私立中学校・高等学校振興大会(参加者・議員45名 実行委員・事務局52名 学校参加者998名 合計1095名)

◆12月3日(火)

私学振興全国大会 *東京日比谷公会堂(参加者・市川会長、他役員8名 保護者会69名)

◆12月4日(水)

「かながわ元気フォーラム」*ロースホテル横浜(出席者・市川会長、佐藤副会長)

◆12月24日(火)

県交通安全対策協議会 *かながわ県民センター(出席者・市川監事)

◆1月15日(火)

「私学新春のつどい」*横浜ロイヤルパークホテル(出席者・市川会長、他役員8名)

◆2月20日(木)

研修事業Ⅱ「神奈川県私学の講演会」*崎陽軒本店(出席者・市川会長、他役員8名 保護者92名)

これからの行事予定

◆5月13日(火)

平成25年度保護者会連合会「会計監査」*私学会館(出席者・深沼・原会計理事、金子・市川監事)

◆5月23日(金)

平成26年度定時総会 *崎陽軒本店

◆6月27日(金)

関東地区保護者会連合会理事会 *茨城県水戸市

◆7月11日(金)~12日(土)

日本私学保護者会連合会総会 *大阪府

◆8月29日(金)

関東地区保護者会連合会・代表者会
*茨城県水戸市、レイクビューホテル水戸

神奈川県私立中学高等学校案内 ホームページ

<http://www.phsk.or.jp>

●内容 学校情報・入試情報・英文情報・学費補助

■発行者 『神奈川県私学保護者会連合会』

〒221-0833

横浜市神奈川区高島台7番地5 神奈川県私学会館内

☎045(321)1901

■印刷所 『有限会社 イソノ』

〒235-0016

横浜市磯子区磯子3-10-4

☎045(753)2549